

二松學舎大学 東アジア学術総合研究所 共同研究プロジェクト
沖山光研究会企画ワークショップ

[おきやま ひかる]

沖山 光

近代国語教育に遺した足跡

2016年2月6日（土）14：00～16：30
二松學舎大学 九段校舎1号館2階201教室
〈事前申込不要・来聴歓迎〉

司会 [二松學舎大学教職支援センター教授]
小湊朝男

報告1

沖山光と戦後国語教育政策

[二松學舎大学教職支援センター特別招聘教授]
榎本 善紀

報告2

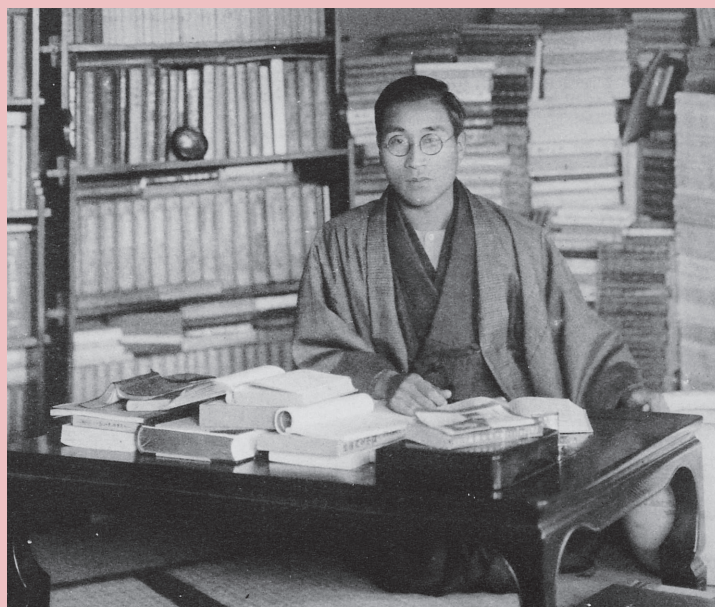
沖山光の教育思想

[帝京大学教育学部客員教授・帝京大学小学校副校長]
太田由紀夫

沖山光 (おきやま ひかる / 1905～90)

明治38年(1905)、東京に生まれる。大正14年(1925)東京府青山師範学校本科第一部を卒業後、港区桜川小学校訓導となり、翌年早稲田大学文学部全科修業。昭和3年(1928)東京青山師範附属小学校訓導、同6年(1931)二松學舎専門学校本科(夜間)卒業。

戦後、文部省において教科書の編纂、学習指導要領、「筆順の手びき」の作成等に携わり、文部省初等中等教育局筆頭教科調査官を努めた。教育行政に携わる傍ら、昭和33年(1958)、『意味構造に立つ読解指導』を上梓、国語教育において構造的読解指導を提唱。国語教育界に大きな影響を与えた。平成2年(1990)没。



二松學舎大学 東アジア学術総合研究所 共同研究プロジェクト
沖山光研究会企画ワークショップ

沖山 光

[おきやま ひかる]

——近代国語教育に遺した足跡——

報告1 要旨

沖山光と戦後国語教育政策

榎本善紀

戦後日本の教育はGHQの指導の下にスタートした。沖山光が文部省に勤務した昭和20～30年代の国語教育政策を概観する。

特に、第6期国定教科書「みんないいこ読本」の編集、第1期学習指導要領（昭和22年）の作成を中心に考察するとともに、文部省初等教育実験学校における読解指導研究から構造的読解指導へと発展していく過程を展望する。

報告2 要旨

沖山光の教育思想

太田由紀夫

沖山光の構造学習論は、いかにして成立したのか、子ども主体の国語教育をいかに創造していったのか、その軌跡を追います。

青山師範学校4年生のときに著した『創作ノート』なる手記、若干30歳、青山師範学校訓導時代に著した『一点凝視の読み方教育』、そして、翌年研究主任としてまとめ上げた未刊の著『低学年における総合的取扱の研究』を基に、沖山光の教育思想を明らかにしていきます。

